

- ◆ 直近で実施したL452R変異株PCR及びゲノム解析結果の内訳では、L452R陰性及びオミクロン株の割合が80%以上
 - ・感染が急拡大しており、変異株スクリーニングのために新型コロナ陽性の全検体を確保することが困難になってきている。
 - ・ファーストタッチなどの陽性者対応に重点化した体制に移行する時期がきている。

◆ 大阪府の方針

○変異株スクリーニング検査体制

陽性検体の全数確保を中止し、阪大微研や大安研、医療機関などの変異株スクリーニング検査実施可能機関に搬入された検体を中心に実施

○ゲノム解析体制

変異株スクリーニングを実施した検体のうちCt値30未満のものを中心に実施

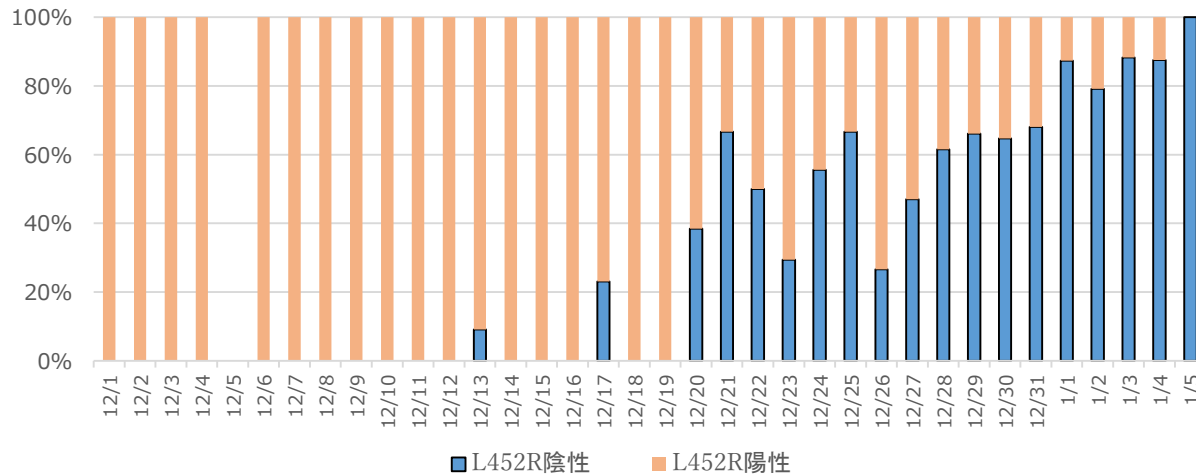
ただし、ゲノム確定例からの感染経路が明らかである場合（クラスターや家族内感染等）はゲノム解析の実施は不要

<変異株PCR検査実施状況（機械的な試算）（12/27-1/2 暫定値 1/5時点）>

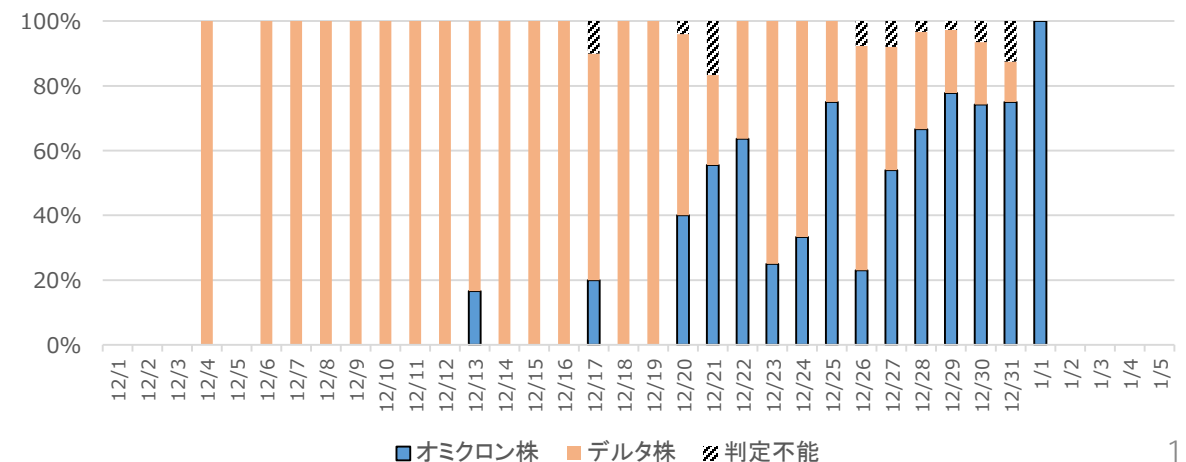
	全国	大阪府
変異株PCR検査陰性率	46%	60%

（出典）1月6日第66回アドバイザーボード資料4より抜粋

<L452R変異株PCR検査（検体採取日別）>



<ゲノム解析結果（検体採取日別）>



（注1）ゲノム解析はウイルス量の多い検体を対象に実施しているため、変異株スクリーニング後の全検体に対して実施しているわけではない。